

（別記様式）

令和５年度 府立西乙訓高等学校 学校経営計画（スクールマネジメント）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的・対話的で深い学びを促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。	1 各種の広報活動（学校説明会、中学校からの説明会の依頼、「にしおつだより」の発行、ホームページ・Instagramの更新等）の結果、説明会への参加者の増加（昨年度より250名以上）とともに、前期志願者は微増した。しかし、定員を充足することができず、志願者増に向けて、新たな取組が必要である。	○保護者及び生徒による学校評価アンケートについて、全項目とも前年度を上回る評価を得る教育活動を実施する
2 基本的生活習慣を身につけ、自らを大切にし、他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。	2 進学補習や進路説明会、模擬面接等を丁寧かつ系統的に実施し、国公立大学及び私立大学等への進学、就職・公務員への希望進路を実現することができた。龍谷大学や京都産業大学等へは厳しい状況であり、進路に対する意識付け及び学力の向上が求められる。	1 生徒の学力の向上と希望進路の実現 ・ICTを活用して、生徒に係る情報を迅速かつ正確に共有するシステムを構築する。 ・生徒一人一台端末導入2年目を迎え、教員のスキルアップを図り、主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒の学習意欲を高める。 ・各種のツール等を積極的に有効活用するとともに生徒の知的好奇心を高め、主体的な学習をとおして希望進路実現に向けた学力の定着と向上を図る。
3 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。	3 令和5年度に向けて、シャコピー短期留学プログラム（参加予定者6名）及びアーリントン長期留学プログラム（参加予定者1名）の国際教育プログラムを実施することができた。また、インターナショナルデイなどの新たな取組を実施した。台湾研修旅行は、国内（九州）に変更しての実施となった。	2 豊かな人間性と規範意識の醸成 ・生徒の自己肯定感、満足度、充実感を高める教育活動を行う。 ・京都府教育委員会からの「グローバルネットワーク京都」、ユネスコ及び文部科学省からの「ユネスコスクール認定校」の指定、日本の伝統文化の体験、各種留学を含め国内外の高校生等との交流を積極的に行い、国際教育・英語教育をさらに発展させ、グローバル人材の育成を行う。
4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。	4 ICT機器の利活用については、オンラインでの一斉配信を初め、活用の頻度、内容ともに増加向上している。教職員のスキルの更なる向上とWi-Fi環境等の設備面の充実（整備）が必要である。1年生にiPadが導入されたが、各種の取組の結果、図書館の貸出冊数は1,200冊に近づいた。	・部活動の活性化を図り、加入率・定着率を高め、学校全体として活気のある集団を形成することにより、生徒の心身の健全なる成長を図る。今後の部活動のあり方について検討する。
	5 コロナ禍ではあったが、感染防止対策を施し、年度当初に計画した学校行事はほぼ実施できた。各種の学校行事をとおしてクラスのリーダー的役割を担う生徒を育成することができた。	・生徒にけじめのある学校生活を過させることを通じて、規範意識の向上と公徳心の育成を目指す。
	6 継続して部活動に取り組んでいる生徒は、充実した学校生活を送っている。部活動の加入率及び定着率は低く、活気ある学校づくりの観点からもその対策が急務である。部員の確保が難しい部もあり、本校の部活動のあり方についても検討が急務である。	・学年集会や学年だよりなどを十分に活用して、担任、学年を始め、教職員の思いを生徒にタイムリーに伝える。
	7 個々の生徒の問題について、学年部や関係分掌とも連携し迅速に対応できた。また、教育相談会議や特別教育支援会議の内容を教職員間で情報共有するとともに、地域の専門機関と連携しケース会議を実施し、生徒の対応を協議することができた。コミュニケーションや相手の思いやりの不足によるトラブルや支援が必要な生徒は増加傾向にあり、更なる連携が必要がある。	・全教職員が、すべての教育活動に人権意識を持って指導にあたる。
	8 規範意識の醸成については、啓発ポスターを作成し一定成果があったと感じるが、自宅、学校問わず、スマートフォンやSNSの適正利用については、引き続き啓発活動が必要である。	3 広報活動等による積極的な情報発信 ・学校説明会、学校HPや「にしおつだより」の内容をさらに充実させるとともに、様々なツール（YouTube、Instagram等）を積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。 ・西乙訓高校の魅力を伝えるために、新しい企画を打ち出し、生き生きしている生徒の様子を地域にアピールする。

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
組織・運営	分掌間・教科間の協力の推進	○Teams、教務黒板等を含めICTを活用し、情報の共有化と業務の効率化を推進し、分掌・教科間の連携を図る				
		○教職員全体が課題改善に向けた共通の認識をもち、連携と調整を図る。				
学習指導と進路指導	授業改善	○研究授業や教科主任会を活発に行い、ICT活用の先進的な取組事例を教員間で共有し、授業改善を行う				
		○生徒の基礎学力の定着と基本的生活習慣の確立のため、担任・教科・教務部が欠課時数や学習状況等を連携して確認できるようにする。				
	学力の向上	○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。そのために分掌・教科が連携し、先進的な取組事例等を教職員間で共有して授業改善が進むようにする。特に総合的な探究の時間が全校的な取組になるように校内体制を整える。				
		○基礎基本を大切にし、個々の生徒に対応したきめ細やかな指導を行う				
		○主体的・対話的で深い学びに向けてICTを積極的に活用する。				
	国際教育の推進	○生徒一人一台端末導入受け、各種のツールを積極的に活用し、生徒の主体的な活動を促す。				
		○自学自習時間を増加させることにより、さらなる学力の向上を目指す。				
		○次年度以降に向け、シャコピー高校短期留学プログラムの仕事の流れの共有を図る				
	希望進路の実現	○総合的な探究の時間や各教科の学習、生徒会活動等、学校教育全体を通じて、ESD（持続可能な開発教育）を推進する具体的な取組を実施する。				
		○異文化理解や国際貢献意識の涵養を目的とした国際教育の一層の推進を図る。				
		○ユネスコスクール、グローバルネットワーク交流校として、SDGsの取り組みにも力を入れる。				
		○3年7限講習、土曜講習、長期休業中の講習等の定着や充実を目指し、進路実現に向けて実力の向上を目指す。				
		○オープンキャンパス、小論文指導、模擬面接、進路説明会等を通じて、生徒が具体的な進路目標に向けて、行動できるように支援する。				
		○進路指導部と学年部及び各教科との連携を密にし、生徒個々の進路希望に応じた指導を徹底する。				
生徒指導と特別活動	図書視聴覚教育の充実	○国公立大学・私立大学合格者数の増加及び進路決定率100%の実現を目指す。				
		◇読書意欲の向上と図書館の利用促進				
		○生徒の読書意欲向上と図書館利用の促進を図る新たな取組を行い、生徒の貸出冊数1,200冊を目標とする。				
	規範意識の醸成	○昨年更新されたプロジェクターとICT機器の連携を軸とした視聴覚教室の環境整備を進める。				
		○授業及びホームルームでの積極的な図書館の利用促進を図る				
		○校内でのスマホの使用ルールの順守、季節や学校の雰囲気に応じた服装をさせる。また、清掃活動活動とともに、マナー等の向上を図る。				
	特別活動や部活動の充実	○委員会活動をとおして、生徒自身から規範意識の醸成につながる取組を行う				
		○学年集会の実施 学年全体で規範意識を高める方法、考え方等を共有していく				
		○各担任を通じて、けじめのある学校生活の過ごし方を提案し、ホームルームで生徒同士が検討する場面を設ける				
	交通安全指導の推進	○球技大会や文化祭、体育祭をクラス委員と生徒会本部役員を中心に企画・運営を行っていく。				
		○校外学習や研修旅行をクラス作りの一材料とし、運営委員を企画し、クラスだけでなく、学年としてのまとまりにもつなげる				
		○積極的に部活動への加入を勧め、部活動体験への参加を呼びかける				
人権教育の推進	人権教育の推進	○各学期ごとに警察署、PTA、長岡京市、大山崎町の職員の方と協力し交通安全指導を行う。				
		○自転車の危険運転については、SHRでの担任指導、学年集会や全校集会で啓発及び指導を行う				
		○いじめについては、教職員で本校のいじめ防止基本方針を確認し、全教職員が人権意識を持って全ての教育活動に取り組む				
		○年2回のいじめアンケートだけでなく、全教職員が生徒の言動に注意を払い、いじめ等の未然防止に努める。				
		○学年部・保健部・生徒指導部等で、生徒の情報を共有し、必要に応じてSCや関係機関と連携する				
		○SNSの適正利用に向けて、啓発活動を行うと共にその能力を習得するための取組を行う				
		○自分と違うものを認める集団になるよう導く。（コミュニケーション訓練を実施する）				

評価領域	重 点 目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
健康安全	環境・美化の推進	○環境美化活動や校外の清掃活動を行い、学校全体の意識向上を図る。				
		○旧式の蛍光灯器具を順次LED器具に更新し、照度の向上も併せて省エネを進めていく。				
		○コロナ対策で進めてきた衛生対策を注意喚起を含め、引き続き進めていきたい。				
		○学習環境を整えるために、日常の清掃活動をきめ細かく丁寧に行之い、保健委員会を中心としたゴミの分別等、環境美化活動や広報活動を行い、学校全体の意識向上を図る。				
	生徒の実態把握と支援の充実	○各種の補助制度や奨学金制度の情報発信に努め、必要な支援を行う				
		○担任、教科担当、各分掌及び家庭との連携を密にし、必要な支援を適正に行う				
		○健康診断や宿泊を伴う行事の際には保健調査を行い、健康状況を把握すると共に、学校医・関係職員と連携して健康管理を行う。				
		○状況に応じて、スクールカウンセラー及び地域の専門機関（医療・特別支援センター・児童相談所等）との連携により、学校における教育相談及び特別支援教育を充実させる。				
魅力ある学校づくり	広報活動の充実	◇「志願者増加に向けた目標と対策」および「学校説明会・広報誌にしおつだより等の充実」	／			
		○志願者増加に向けて、こまめに中学校との連携を図り「11月の志願者数160名（昨年123）、最終志願者を昨年（181）より、のべ合計50名増加」させる。（目標 前期110（倍率2倍に）中期120（定員＋約10名））				
		○まず乙訓地域を重点に近隣20中学校と連携を深め、また他の地域へ範囲を広げた広報活動を行い、志願者増加を図る。 （11月調査 第1志望者数目標 乙訓地域：80（昨年65） 京都市地域：70（昨年58））				
		○学校説明会において、積極的にICTを活用するとともに、中学生や保護者を惹きつけるような本校の魅力・特色などを発信する。また、説明会の参加者を昨年より「100名増加」させる。（昨年度47名増）				
		○広報誌にしおつだよりを「約月1回発行」し、中学生などに学校の取組や情報、生徒の活躍、本校の魅力を発信する。				
		◇「在校生に向けた取組」と「WEB等による広報の充実」	／			
		○各取組を紐付けし、国際教育の学びをより実感させる。また広報・図書部主催イベント「にしおつDay」を新たに計画・開催し、学校生活をより楽しませ、生き生きしている様子を地域や中学生にアピールすることで本校の志願者増加につなげる。				
		○校内モニターを活用し、在校生に向けた取組を行う				
		○ホームページをより見やすく使いやすいものに「リニューアル」して、学校情報や本校の魅力を、よりわかりやすく外部に発信する。				
		○「全部活動、学期に1回はHP更新」するとともに、学校生活の様子をこまめにかつタイムリーにホームページ掲載する方法を構築し「全体の更新を平均週5回」を目指し、学校の様子を発信する。				
		○様々なツール（YouTube・Instagram）をより積極的に活用し、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加を図る。				
		○広報活動をスムーズに進めるために、必要な機器や発信環境の整備に努める。				
	安心・安全な学校環境	○定期的に施設設備の安全点検を行い、危険箇所を把握する。				
		○日常の教育活動において全教職員が連携し生徒の安全を確保する。				
		○昨年に引き続き、衛生委員会で提起を受けた事項を中心に、保健部と十分協議のうえ、校内の衛生環境の向上に取り組み、学習環境を整える。				
		○各水栓の自動化整備及び各教室整備のＣＯ２モニタを利用しながら、換気扇やサーキュレータの整備を推進していく。				
	学年の取組（３年）	Where there' s a will, there' s a way.「意志あるところに道あり」 自らの意志で道を切り拓くような高校生を育てる。				
		○社会へのWILL(意志)－素敵な高校生になるために－ 社会の一員としてマナーを守り、自分にも他人にも誠実な生徒を育てる。				
		○学びへのWILL(意志)－夢を叶えるために－ 豊かな未来を実現するために、様々なことを学ぶ姿勢を持つ生徒を育てる。				
		○自分へのWILL(意志)－プラス思考で－ 自分の成長のために、何事にも常に前向きに取り組む生徒を育てる。				
	学年の取組（２年）	○学習面、生活面、すべてにおいて生徒自身が自律的に考えて行動出来るようになるように指導にあたる。その際、研修旅行を念頭におき、大きな一つの目標として諸活動を進めていく。				
	学年の取組（１年）	○学習習慣の確立 各教科への取り組み状況を教科担当と連携し確認していく				
		○視覚から伴う印象をどのように向上するのか、清掃そのものがそれであることを理解させ、あわせて、身だしなみや立ち振る舞いも同じものだということを認識させる。				
		○行事への積極的な参加を全体に促し、学級のみならず学年で一つのことに取り組むことへの意義を理解させ、学校生活が豊かになるように取り組んでいく。				

学校関係評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	